

(10)生態系の予測・評価に関する意見

①全般的事項

分類	主な意見の概要	事業者の見解
生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷に伴う生態系への影響は楽観的すぎ、生態を知らない技術者の意見である。</li> </ul>	<p>動植物生態系に及ぼす影響については、現地調査結果に基づき、既存の類似例等を参考に予測を行い、事業者の実行可能な範囲内で影響の回避・低減のための環境保全措置を講ずることとして、移動・移植・繁殖期の工事の休止などを考えています。なお、移植については、モリガ委員会で具体的な移植手法について検討を行い、環境保全措置の効果を確認してまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通種だけだから破壊していいという考え方は、生物が相互に関連をもって生存しているという、極めて初歩的な知識すらもっていないことを示している。</li> </ul>	<p>生物が相互に関連を持って生存しているという前提をふまえて、生態系の基盤環境、生態系の機能と構造について予測評価を行いました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>カラ岳の北側は北側の田畑を潤し、宮良川の源流になっており削られることで生態が変わる。</li> </ul>	<p>カラ岳北側は宮良川流域に入っておりますが、切削部は宮良川流域には入っていないことから、カラ岳切削により宮良川の生態系に影響を及ぼすことはないものと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海川山を全体的にみる視点を欠いており総体としての生態系をとらえていない。</li> <li>陸・浜・海は繋がっており、水路が断たれ妨げられることにより動植物、海中の生物までも絶滅させる。陸だけの調査だけでは保全は不可能。</li> <li>白保のアオサゴ群、カグラコウモリ等、白保の陸・浜・海は今の手法では守れない</li> <li>サンゴや貴重な野生生物が生息する白保の陸・海一帯の自然生態系を保全することは不可能だ。</li> <li>循環する生態系への配慮がない。海、山、川が一体のものであるということについて評価がない。</li> <li>陸も海も一緒に保全しなければ貴重なサンゴ礁は守れません。</li> <li>陸地の生態系の改変・破壊は海の生態系の破壊に通じる。</li> <li>白保サンゴ礁海域は連続した多様性に富んだ生態系であり、カラ岳陸上部に空港を建設することは貴重な生物資源を永遠に失うことになりかねない。</li> <li>白保海域のサンゴ群落は、現在、何らかの保護対策なしには健全な生育が危惧されているのに、隣接する海域の陸上部に巨大な空港建設が行われることは、誰にも保障することのできない重大な危惧を伴うことは明らかではないか。</li> <li>洞窟をつぶせば、陸と海の生態に変化ができ、白保の海（サンゴ）は保全できない。</li> <li>洞窟をつぶす事は海への影響は大であり白保の海は守れない。</li> </ul>	<p>準備書で陸域生態系と海域生態系とに区分して整理したのは、主な生息基盤を基にわかりやすく表現したものであり、生息空間が陸・川・海と連続していること、食物連鎖も陸・川・海の生物が相互に関連することを踏まえて検討を行っています。</p>